

学校だより



市川市立平田小学校

～共に学ぶ 共に育つ 共に感動する 共に未来を創る～

いなほ  
稲穂

学校教育目標

夢をもち、たくましく生きる  
子どもの育成

No.23

R6年2月5日

校長 蜂須賀 久幸



## ダメな人なんていない！

『ひびわれ壺』というインドの寓話をご存じでしょうか。様々なところで紹介されているので、知る方もいらっしゃるかもしれませんが、そうであってもお子さんと一緒に読んでみてください。

インドのある水汲み人足（人夫）は、2つの壺を持っていました。天秤棒の両端にそれぞれの壺を下げ、肩にかけて、ご主人様のために毎日水を運んでいました。

その壺の一つにはひび割れがありました。もう片方の完璧な壺が、小川からご主人様の家まで一滴の水もこぼさないのに、ひび割れ壺は人足が水をいっぱいに入れてくれても、ご主人様の家に着くころには半分になってしまうのです。

完璧な壺は、いつも自分を誇りに思っていました。なぜなら、彼は自分の役目を十分に果たしていると満足していたからです。逆に、ひび割れ壺はいつも自分を恥じていました。なぜなら、自分の目的を半分しか達成することができず、惨めな気持ちになるからでした。

2年がたち、すっかり元気をなくしていたひび割れ壺は、ある日、川のほとりで水汲み人足に言いました。

「私は自分が恥ずかしいのです。そして、あなたにすまないと思っています。」

「なぜそんな風に思うのか？」

水汲み人足は尋ねました。

「何を恥じているのだい？」

「この2年間、私はこのひびのせいで、あなたのご主人の家まで水を半分しか運ぶことができませんでした。水が漏れてしまうから、あなたがどんなに努力しても、その努力が報わ

れず、半分しか役に立っていません。それが辛いのです。」

と、壺は言いました。

水汲み人足は、ひび割れ壺を気の毒に思い、そしてこう言いました。

「これからご主人様の家に帰る途中、道端に咲いているきれいな花をよく見てごらん。」

天秤棒にぶら下げられて丘を登っていくときひび割れ壺は毎日通る道端に、お日様に照らされながら美しく咲き誇る花があることに気づきました。

花は美しく、壺は少しだけ元気になったような気がしましたが、ご主人様の家に着くころには、また水を半分漏らしてしまった自分を恥じて、人足に謝りました。

「ごめんなさい。やっぱり私は役に立たない壺です。ごめんなさい。」

すると、水汲み人足は言ったのです。

「気がつかなかったのかい？花は君の側にしか咲いていなかったらう？僕は君から落ちる水に気づいて、君が通る側に花の種を蒔いておいたんだ。そして、君は毎日、僕が小川から帰る途中、水を撒いてくれた。この2年間、僕は毎日その花を切り、ご主人様の食卓に飾ることを欠かしたことがない。君のおかげで、ご主人様はこのきれいな花を眺めながら食事を楽しむことができるんだよ。」

菅原裕子訳「ひび割れ壺」ほか参考

裏面へ続く



完璧な壺のように、効率よく目的を達成することができる人もいれば、その半分しか達成できない人もいます。でも、知らず知らずのうちに、数値化できない「花」という功績を残しているかもしれません。

例えばサッカーチームだって、点取り屋ばかりでは成り立ちません。パスナーも必要ですし、ディフェンスやゴールキーパーだって重要です。さらにはケガなどに備えていつでも対応できる控え選手、対戦相手を分析する人、ケガなどをしないように入念にグラウンド整備を行う人など、あちらこちらに「花」は咲いているのではないのでしょうか。

配慮を要する子供たちや大人もいます。他人と比べたらできないこと、うまくいかないこともあるでしょう。しかし、目を向けるべきはそこではないように思います。子供も大人も、「その人がその人らしくいられること」が第一だと考えます。「ひびわれ壺」だからこそ輝けるものを引き出した水汲み人足のように、それぞれの人が持つ一見気づきにくい「花」を見つけられる教職員、保護者でありたいと願います。

子供たちには、4月からの軌跡の中に「自分の良さ」「咲かせた花」「自分らしさ」を発見し、3月まで、さらにその先の道程を思い描きながら、次の一步をどう踏み出すか考えてほしいと思います。そういう時期に突入です。

## 体力・運動能力全般を鍛えるために

二月十九日から月末まで「縄跳び週間」です。体育の授業の始まり5分間や休み時間に、長縄・短縄の練習に取り組みます。運動の習慣化や心肺機能の向上、一つのことに向かって頑張る団結力、そして寒さに負けない健康な心身をはぐくむことを目的とします。縄跳びは、子供のスタミナだけでなく運動能力全般をアップさせる運動であると言われます。

ある研究結果から小学校高学年男子の「50m走」と「立ち幅跳び」における相関関係が見てとれます。つまり、「立ち幅跳びが遠くまで跳べる（ジャンプ力のある）子」は「速く走れる子」と言えるわけです。

このジャンプ力を強化するには、身体のパネを鍛えることが有効です。そのジャンプ力を高めるためには、足首や膝を曲げずに跳び、地面に着地したらすぐ弾むといったトレーニングをするとよいようです。まさに縄跳び運動に通じます。縄跳び運動を業間休みに取り組んだある学校の体力テストの結果を見ると、5年生では上体起こしや長座体前屈といった「体幹筋」への効果が顕著でした。6年生ではシャトルラン（心肺機能）や反復横跳び（敏捷性）のほか、立ち幅跳びや50m走でも伸びがみられました。

このように、縄跳び運動に期待される効果は次のようなことが考えられます。

(一) よい姿勢づくり…跳ぶ時にお腹をキュッと引き締めることで体幹筋が鍛えられる。

(二) 骨密度の強化…繰り返される骨への衝撃で、自然と骨密度が高まる。

(三) 敏捷性の向上…素早い動きを繰り返すことで、機敏さやすばしっこが向上する。

学校だけでなく、家庭でも一年間を通して実践するとどんな効果が表れるのか楽しみます。続けてみませんか？



- 1 たんぽぽ学級の先生が、2月18日から産前休暇(赤ちゃんを産む準備のための休み)に入ります。保護者の皆様や子供たちにご理解・ご協力いただいたことに感謝いたします。
- 2 来年度入学の保護者を対象とした「入学説明会」は8日(木)に行います。HP「おしらせ」>「新1年生の皆さんへ」にあります。